

令和 7 年 6 月

ソフトボール大会主催者各位

県北ソフトボール協会 会 長 鈴木茂雄
県北ソフトボール協会審判委員会
委員長 菊田正弘
(公印省略)

ソフトボールにおける熱中症予防対策ガイドラインについて

拝啓 初夏の候皆様ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今般、協会が主催者として実施する大会の熱中症予防対策についてのガイドラインが公益財団法人日本ソフトボール協会より福島県ソフトボール協会を通じ通知がありました。

つきましては、選手や審判員や運営担当者等の熱中症罹患防止の観点から県北地区管内における皆様方の各種大会におきましても主催者各位の責任においてこのガイドライン概要（抜粋）を準用した大会運営に努めていただきたくお願いするものです。

【ソフトボールにおける熱中症予防対策ガイドライン概要（抜粋）】

1. 目的

暑熱環境における大会（試合）実施についての基準、開催時の熱中症予防対策、熱中症発生時の現場での対応などを定める。

2. WBGT（Wet-Bulb Globe Temperature：湿球黒球温度）について

WBGT は、スポーツ活動や労働時の熱中症予防の温度指標である。

（1）日本スポーツ協会（JSPO）の指針＜WBGT 値＞

WBGT 値	運動指針
28 以上	厳重警戒（激しい運動は中止）
31 以上	運動は原則中止

（2）気象庁よりの WBGT（暑さ指数）の発表

WBGT 予測値	発表時刻	アラート内容
33 以上	前日 17 時頃と当日 5 時頃	熱中症警戒アラート
35 以上	前日 14 時頃	熱中症特別警戒アラート

3. WBGT 測定のタイミングおよび測定時期

（1）WBGT の計測は、大会運営者が、競技日ごとに全会場、全試合で実施する。

（2）1 試合における計測は、試合開始前、2 回終了後、4 回終了後、試合終了後の 4 回とする。

※試合開始前の計測は、できる限り試合開始時間の直前とする。

※延長戦の場合は、2 イニングごとに計測を行う。

- (3) WBGT の計測は、実際にプレーを行う日射のあるグラウンド上または運動実施個所になるべく近い同様の環境下で、地上から 1.1～1.5m の高さで実施する。

4. WBGT に基づく大会（試合）実施の判断（主催者各位の責任の下判断）

- (1) 大会運営者は、試合前日～当日に大会開催地域に「熱中症特別警戒アラート（予測 WBGT 値 35）」または「熱中症警戒アラート（予測 WBGT 値 33）」が発出された場合は、参加チームに対して当日の試合が中止、延期、時間変更の可能性のあることを予め参加者に伝える。
- (2) WBGT 値における対応

WBGT 値	対応
当日の試合開始前の WBGT 値が 31 以上の場合	・試合は原則中止、中断、延期とする。 ・ただし、<u>熱中症予防対策</u>を十分に講じている場合には、<u>主催者の判断において実施することができる。</u>
試合途中で WBGT 値が 35 以上になった場合	・試合の中断、延期、中止等を検討する。 ・各会場責任者が<u>主催者に報告、相談し、最終的に決定する。</u>

- (3) 熱中症予防対策とは

①	WBGT 値が 28 以上の場合、原則として、2 回、4 回、6 回終了時に、原則 5 分間の給水・身体冷却タイムを設ける。
②	延長戦の場合は、2 イニングごとに 5 分間の給水・身体冷却タイムを設ける。
③	各イニングで守備時間が 20 分以上に及ぶ場合、5 分間の給水・身体冷却タイムを設けることがある。
④	WBGT 値が 28 未満の場合でも、必要に応じて給水・身体冷却タイムを設けることがある。

5. 事前準備

- (1) 大会要項で、当日の暑熱環境によっては、大会（試合）が中止、延期となることがあることを事前に周知しておく。
- (2) 参加チームには、試合時に、十分な量の飲料水、スポーツドリンク等の飲料と身体冷却用の氷を持参するよう事前に通知しておく。
- (3) 可能であれば
- ①本部・両チームベンチ・審判控等テントを設営し日差しを遮る。
 - ②運営スタッフ・審判用の飲料水、スポーツドリンク等の飲料と身体冷却用の氷を準備する。
 - ③散水設備が整う会場では、可能な限りグラウンドに散水を行い、グラウンド温度を下げることを望ましい。

6. 熱中症を疑う症状（参考）

他覚症状	ふらつき・生あくび・失神・大量発汗・痙攣・ぼーっとしている等
自覚症状	めまい・筋肉痛・こむらがえり・頭痛・不快感・吐き気・倦怠感・高体温等

以上